



津田文庫
文庫 1
1795



早稲南大学
圖書館藏書

源貞時評述を最上巻

源貞時評述



人定ん寺殿と持明使ありしゆ子孫ありて選代小皇位に
一と奉一 定ん寺殿と持明使ありしゆ子孫ありて選代小皇位に
龜山天皇の御子孫と認むるも山とて天皇脱履のほは源氏あり
はるる定ん寺殿と持明使ありしゆ子孫ありて選代小皇位に
と大定ん寺殿と持明使ありしゆ子孫ありて選代小皇位に
京とて定ん寺殿と持明使ありしゆ子孫ありて選代小皇位に
家心の定ん寺殿と持明使ありしゆ子孫ありて選代小皇位に
此後よりいふに源氏の白皇統と持明使ありしゆ子孫ありて選代小皇位に
三つれいし梅松倫と徳とていふに源氏の白皇統と持明使ありしゆ子孫ありて選代小皇位に
一の御子孫とて久仁親王とて源氏の白皇統と持明使ありしゆ子孫ありて選代小皇位に
はらまの御子孫とて源氏の白皇統と持明使ありしゆ子孫ありて選代小皇位に
ゆふ源氏とて源氏の白皇統と持明使ありしゆ子孫ありて選代小皇位に

逆罪と怕れしよりし朝臣居りしよりし小菟さる
はるい後光の可為りしをこそとえさるなりきと
人よ之を多々奸計しむるも余後京をて軍取せり
と殺て走りし折闘戦とてまてしをのめん争ひし
はゆらん位即止世のむ小菟糶の位宣と三景一
し亦共侶するも味をせしむるも氏遂に光嚴帝の
光嚴帝と推立て即位せり即ちよりて延元の號と
りもその女の奸計より光嚴帝はさ時よりさる
るも三景と三景一薦のむその身せん御事
即ちありしやせし廢立の功よりさる隨意せん
この改は後醍醐天皇とトて御事合れり御事
竟る名御事自らとトて御事合れり御事
るも少菟の御事興るも御事合れり御事
たすれ右もこの風雲の合小葉して只致るも
御事合れり御事合れり御事合れり御事合れり
御事合れり御事合れり御事合れり御事合れり

為るも義詮父子流りて御事合れり御事合れり
後と精一勅使あり少菟の劍金といふ御事合れり
て小玉山宗光希とて逃りて右皇の御事合れり
次の年三平春二月官位の人持御正儀小菟顯能千
桓何より改めりし折是利を詮放きて美濃州へ逃
持御正儀の三位を情なくし棄擲て西安危とて
光嚴光顯宗光の三位の御事合れり御事合れり
逃りし余後光の御事合れり御事合れり御事合れり
は光嚴位とありし御事合れり御事合れり御事合れり
由て然るもこの御事合れり御事合れり御事合れり
の御事合れり御事合れり御事合れり御事合れり
名ありし御事合れり御事合れり御事合れり御事合れり
そのより五室卑し御事合れり御事合れり御事合れり
少菟の御事合れり御事合れり御事合れり御事合れり
と皇統の御事合れり御事合れり御事合れり御事合れり

忠通
頼長 武

の奴も倣ふ不似しれは、去年の事と喜つて、恥を樂ふもの異なり
命程不承の或る逆の終と建し、よりそま利とくく、武弁の
毎水の低ふに就く、威を以て後む、朝敵と物の屑と
せしむ、信を以てそむ、武界ももて、連神のしとく、あつまわし
只是時と人の心と、悔むに、よりて、利う、なつなり、ぬら、の時、
大志あり、その那を、時、類、小、做、つて、一、呼、せ、世、界、の、武、士、悉
皆、左、袒、せ、ん、這、様、ひ、を、之、を、止、せ、と、も、り、ゆ、て、は、悔、く、さ、り、軍
旅、の、ま、ま、最、疎、う、に、衆、の、ま、達、を、征、夷、将、軍、小、做、し、ま、さ、せ
且、文、弱、を、り、公、卿、生、上、達、部、を、新、田、捕、れ、し、ま、さ、り、を、を、大、探
る、ま、さ、り、し、し、も、小、島、父、子、弟、兄、と、獲、る、親、王、と、徐、き、て、
し、し、い、し、ん、或、切、も、何、し、し、要、緊、の、折、も、狼、狽、し、て、も、是、縁、
よ、ま、り、の、も、古、い、法、を、百、官、も、文、官、武、弁、の、差、別、を、も、あ、ら、わ
その、畧、を、擇、て、征、伐、を、主し、し、し、と、今、も、古、轍、を、踏、
い、し、し、と、知、召、れ、と、祈、小、刻、し、し、と、今、も、古、轍、を、踏、
か、し、又、那、獲、る、親、王、の、大、宗、の、無、流、し、て、え、し、の、武、功、大
く、い、し、し、と、や、件、の、親、王、と、な、り、ま、さ、り、ま、さ、り、し、て、西、域、を

ゆて大將軍、少多しれ、且、系、を、副、將、軍、より、て、俱、そ、る、氏、を、
ま、り、官、守、の、名、威、必、振、つ、て、恥、を、撥、る、大、切、也、し、し、し、
信、容、て、獲、る、親、王、を、和、を、ひ、し、し、刺、直、を、ま、さ、り、
信、を、い、し、し、し、し、仇、を、ま、さ、り、し、し、
術、を、い、し、し、し、し、知、る、し、し、し、し、
敵、慮、の、あ、ら、く、し、し、
な、し、し、し、し、建、武、二、年、此、月、お、獲、る、時、の、峰、記、し、て、大
軍、と、い、し、し、し、し、に、改、め、り、し、し、帝、御、死、後、を、怯、まひ、て、る、身、を
け、の、あ、ら、わ、る、を、あ、れ、別、代、を、ふ、所、の、國、の、官、領、と、征、夷、大
將、軍、に、し、し、し、し、し、し、勅、許、あり、て、は、悔、ま、さ、り、し、し、
又、延、え、ん、と、し、し、し、し、大、年、此、敵、坂、平、の、し、し、し、し、難、を、の、折、帝、の、名、
賜、ふ、れ、て、新、田、以、り、の、名、を、の、武、臣、の、名、戦、と、忘、れ、ま、し、し、
忽、代、逆、臣、と、睦、あり、て、京、師、還、幸、し、し、し、し、
の、失、策、い、し、し、し、し、の、不、祥、も、い、し、し、し、し、胆、落、て、慌、の、ひ、外、に、あ、ら、わ、い、し、を
ゆて帝、れ、の、慍、外、に、剛、く、し、し、し、し、し、し、し、
内、の、柔、し、し、し、し、し、し、し、
不、違、ふ

しこれの事をして好村上好海山の如く人時より取りても見小堀
足利直冬父小幡りし足利直冬を主小幡りし細川清氏桃井直
常山石氏備大内義弘赤松則祐少むるよりその降参多と勅免
ありて大將不傲し多ひいふよりいふ御共策誰かの非を
知りてこそ夫を名つぬぬの起不答得治乱の係多所忽満りて
くひくを不孝の子不孝の臣は曹備よと匹夫し容れし御方
よ冬多る憑ししあ時の陰謀茲小既具て後とほせし船
ありし梁の事紐りし惑しして侯景を信れむる行心は
似て歎く小堀より然りし那黨よりなる不忠の癖かれ
破り小堀の自皇威と備りて所心を遂く欲せし所以小堀時
の脚滞も多るの惑は戦むの時敗れて屍と歎のる歸り
懸らば然らぬい忽地叛きしつて皇威を對して箭を發し
他門の虚実を知れしゆ不換ありて得ありしとなく小堀の
所運の事よりいりしにこれら由れり又按らるるに南朝村上
てりとの事年號は唐山梁は蕭正徳の偽年號と相同し

梁書評侯景傳を檢せし小堀小自十有景蕭正徳をきて帝と
して偽位小儀賢堂小即ち年と改て公平とす初童謡
よ西年れ言あり故に年號と立てこれに心びあり信れし西年
の年號は先雖是不祥くある時の儒臣とれを知らし之穿鑿
疎忽是非のゆゑ幸ひして二十四年の久きよむりし
るゆゑ南山の事不樂て竟小朔御のいぬる前北は茲小彰然り
約莫これの論辨は南帝即三母のゆゑもいふ人愆徳とりて
然りしと只其の非を算立て沈絶説長人の忠臣義士の素より
せざる所し其の事いふしとらして臣の臣するを盡しして
臣としていありくうらむると信る人智ありあり事は做ら
人力ありありし成し不成は天命なり
善惡忠奸をさしにわたりて天の意あり人よく信の果せるを
そるは北朝小癩瘡をよめて五十四年とて鬼籍をのりぬるを
仲繁よいられしをその人遊て知らしゆあのこと又直を煩死せしれ
多佐并し其氏ししてを寫るしとせしは多佐三十八歳

しこれのこをうては村上好悪のひん付も到りても是も背を

その系鐘くくの長をば平清盛の外その例なりとて輒勅許るなり
感ふとなきとも素懐鬼のあつてもい餘缺なりとてさび
方僅る角のさうさうしてあつて既るをりつても空もはくさ
るふあはし那人権作の癖をれいつて三時の津波と命
復らんともふさうりふも命と給さうつて少くも命ひ
してさうまに這後ともしてせり又礼せんその内心と礎に定家
の益も思ふなりい只是る冠の罪人なりとて那も纏る討
斬して五十三手みられさうと配りつてり定も駭恐しとて
此節も疎かりてさうとてその才三十七歳の時おめたる人
備稟せし小平清盛の外その例なりとて輒勅許るなり
引くも満怒りてさうら人もせんすかありとてその御旨と
引かき抑へてさうさみりつて由主も倣昇り斯は河川島
とて撰家清を倣倣とさうさうさうさうさうさうとて頻り
焦燥たりとて朝後これと避易して勅許ありさうとて
つり語慢くくのしとていけとて親類譜書のあまて歌う
靡く後へり陪るをく鬼胎と抱さうと北心のりの甚く
さうの官領は則氏儀その子満身小むりても世と保らん
このいしとて短命とてさうさうさうさうとて然り少る大因りさ
蕭墙の内より起つて危うりて何威とて幸ひとて免れ
たるも上とてさうとていさうとて下とてその子孫とてふ
二節の多翻をそのいさうとてはの患むらうとていさうと
一家ののちとてその女の妻危れ知らうとて却りこれ不忠不
義の義王自王國の例するさ外邦の臣と倡明の成祖の冊封を
受て日印國王の封をいさうと一期の平しとていさうと大辟無状
死すさうとて這鬼のあまいさうとて南を命と給さうとて
推言不背く一條し明の冊封を受くるはさうとて國統の係る知謙然
として鏡とていさうと



